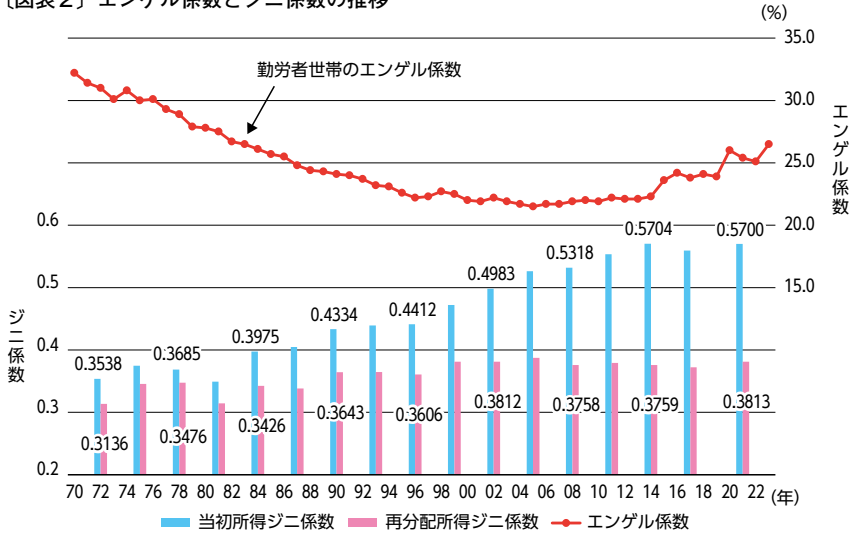


〔図表2〕エンゲル係数とジニ係数の推移



資料：総務省「家計調査年報」、厚生労働省「所得再分配調査」より作成

(税や社会保険などによる調整後)と、両者に大差はなかった。つまり、少しの調整で済む程度の所得格差だったと考えられる。しかも、エンゲル係数が年々低下傾向にあったことから類推すると、どの家庭においても家計は決して楽とはいえないものの、頑張っただけで働いていけば給料が上がり、徐々に生活レベルが向上するという希望を持っていたと思われる。

一方、今回の物価上昇局面はこのような状況とは大きく異なっている。近年、エンゲル係数は上

神戸市の物価による比較

昇傾向にあり、23年は26.5%まで高まっているほか、21年の当初所得ジニ係数は0.5700と調整目安の0.5を超えるレベルに上昇している〔図表2〕。税や社会保険による是正の結果、再分配所得ジニ係数は0.3813に抑えられているとはいえ、庶民の多くはその効果を実感できず、格差が広がっていると感じているはずだ。加えて、賃金の増加率が物価上昇率を下回っており、生活が苦しくなっているのが実態だろう。しかも、急速に進む少子化と高齢化を前に、将来への不安が重くのしかかっている。

〔図表3〕は主要品目の価格推移について、50

年前と今回に分けて一覧表にしたものである。第一次オイルショック時の物価動向をみると、例えば食パン1kgの価格(年平均)は、オイルショック前の72年は176円だったが、75年には263円と3年間で1.49倍になった。その後、77年までの5年間で同1.74倍になっている。牛肉(ロース100g)はさらに上昇率が大きく、75年に204円、77年に317円に跳ね上がっている。一方、今回の局面では、20年から23年にかけての3年間で、鶏卵が1.41倍になったが、他は1.20倍前後(牛肉は0.99倍)であり50年前の前半3年間ほど急騰していない。

ただし、今後さらに円安が進んで輸入品の価格が上昇し、これが他の品目の価格引き上げにつな

〔図表3〕神戸市の物価推移 (年平均)

(単位：円)

品目	第1次オイルショック (50年前)							今回の円安局面							
	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	上昇率(倍)		備考	2020年	2021年	2022年	2023年	備考	
							72→75 (3年間)	72→77 (5年間)							20→23 (3年間)
食パン	176	180	259	263	285	307	1.49	1.74	1kg	418	416	447	490	1.17	1kg
小麦粉	82	85	133	134	150	161	1.63	1.96	1kg	247	257	285	305	1.23	1kg
牛肉	204	317	390	428	514	531	2.10	2.60	ロース100g	805	862	859	799	0.99	国産ロース100g
豚肉	115	132	144	178	203	198	1.55	1.72	ロース100g	248	253	257	279	1.13	国産バラ100g
牛乳	28	32	43	46	51	52	1.64	1.86	1本(200ml)	217	216	218	241	1.11	1L
鶏卵	238	262	326	356	324	353	1.50	1.48	1kg	213	214	215	301	1.41	10個入り1パック
板チョコ	50	50	73	100	100	100	2.00	2.00	1枚(50g)	205	206	218	239	1.17	1枚(100g)
インスタントコーヒー	503	503	605	659	701	1,030	1.31	2.05	150g	912	909	958	1,029	1.13	100g
フリーニング代	83	93	121	137	147	165	1.65	1.99	ワイシャツ1枚	197	201	215	221	1.12	ワイシャツ1枚
フリーニング代	679	711	851	900	925	968	1.33	1.43	背広上下1着	1,341	1,353	1,442	1,583	1.18	背広上下1着
タクシー代	158	160	180	280	280	313	1.77	1.98	初乗り	1,529	1,540	1,540	1,692	1.11	4km、昼
ガソリン代	58	67	98	115	121	124	1.98	2.14	1L	141	156	174	175	1.24	1L

資料：総務省「小売物価統計調査」より作成
※第1次オイルショック…1973年10月に勃発した第四次中東戦争を機に始まった。

がる懸念がある。また、50年前のインスタントコーヒーのように、少し遅れて値上がりする品目も出てくるだろう。加えて、円安の進行に歯止めをかけるための利上げが企業業績を悪化させ、賃上げに影響するかもしれない。いずれにしても、実質賃金が増加しない限り、家計にとって厳しい状況がしばらく続く可能性が大きいと考えられる。